

鳥取県衛生環境研究所研究評価の概要（平成22年度）

平成22年10月18日
鳥取県衛生環境研究所

鳥取県衛生環境研究所では、県政の重要課題や県民ニーズを踏まえた研究活動の活性化を促進し、優れた研究成果を上げるため、平成16年度から県庁組織外部の有識者、専門家による外部評価制度を導入しています。

平成22年度は、平成23年度から新たに実施しようとする研究課題についての事前評価、平成22年度時点で研究途中の研究課題についての中間評価、平成21年度で終了した研究課題についての事後評価を行いました。概要は以下のとおりです。

1 評価方法・評価項目

評価は、研究課題ごとの計画書又は報告書に基づいて、次の区分で実施しました。

●事前評価

- (1) 評価項目：①研究課題の必要性 ②研究の効果 ③研究計画・研究方法
④研究体制・研究予算 ⑤総合評価
- (2) 対象課題：平成23年度に新規に実施しようとする全ての研究課題（10課題）

●中間評価

- (1) 評価項目：①研究の実施状況 ②研究の成果 ③研究の効果
④目標達成の可能性 ⑤総合評価
- (2) 対象課題：3年以上の研究期間を有するものについて必要に応じて実施（1課題）

●事後評価

- (1) 評価項目：①目標の達成度 ②研究の成果 ③研究の効果・成果の実用化
④研究成果の発展性 ⑤総合評価
- (2) 対象課題：平成21年度で研究期間が終了した全ての研究課題（6課題）

2 評価者

評価者は、保健衛生又は環境に関する専門家で、かつ公正な立場で評価していただける学識経験者と、県民の代表として県民、住民団体、企業等の視点から評価していただける有識者から次のとおり選任しました。（敬称略）

【専門家】

氏名	所属	役職	備考
田中 勝	鳥取環境大学環境情報学部環境マネジメント学科	教授	再任
伊藤 壽啓	鳥取大学農学部獣医学科	教授	再任
野津 あきこ	鳥取短期大学生活学科	教授	再任
赤尾 聡史	鳥取大学大学院工学研究科	助教	再任

【県民代表】

氏名	活動・所属団体等	備考
浦木 勝	中海アダプトプログラム実行委員長、NPO 法人自然再生センター会員	再任
三津国美枝子	湯梨浜町民ミュージカル実行委員	新任

3 評価の実施期間

平成22年8月～9月（ヒアリング実施日：平成22年8月23日（月）、26日（木））

4 評価結果及び対応

（1）事前評価

評価対象の10課題の評価結果は、別紙1のとおりでした。

●「評価点」について

評価対象10課題の評価点の合計は、20点満点中13.8～16.3点（平均14.8点）でした。

●「評価上位」について

どの課題も評価点が平均点前後となっていますが、その中でも黄砂・大気粉じんに関する研究（番号9）、ウイルスに関する研究（番号1,2）、自然再生に関する研究（番号5）が上位に位置しており、健康影響に係る課題や環境保全に関する分野の課題が上位にランクしています。

●「総合評価」と今後の対応について

4課題（番号1,2,5,9）については、総合的に「実施すべきもの」と評価を受け、6課題（番号3,4,6,7,8,10）については、総合的に「委員の意見等を反映して実施すべきもの」と評価を受けました。

今後は、各評価者の所見、指摘事項等を踏まえて、研究計画をさらに精査した後、来年度の事業化に向かいます。

（2）中間評価

評価対象の1課題の評価結果は、別紙2のとおりでした。

●「総合評価」と今後の対応について

1課題について、総合的に「継続すべきもの」と評価を受けました。

引き続き、各評価者の意見等を踏まえ、目標達成に努めます。

（3）事後評価

評価対象の6課題の評価結果は、別紙3のとおりでした。

●「総合評価」と今後の対応について

1課題（番号2）については、総合的評価として「評価A（優れた研究成果）」でした。

5課題（番号1,3,4,5,6）については、「評価B（研究成果として概ね適当）」でした。

評価項目全般について、評価者の意見を踏まえ、背景や理由等を検証し今後の研究課題の設定や進捗管理に活かします。

（4）全般的事項

評価者から研究の実施に際しての留意点や着眼点等の助言等をいただきました。

課題によっては、実施の必要性や継続することの重要性を認めていただいた研究を含め、一般的に評価者からは前向きな評価を多くいただきました。

しかし、県民への情報提供や他機関との連携など、検討すべき事項があるとの指摘を受けた課題もあり、評価者からいただいた意見等を踏まえ、見直しを図っていく予定です。

(別紙1)

● 事前評価対象課題と評価結果				研究課題の 必要性	研究の効果	研究計画・ 研究方法	研究体制・ 研究予算	評価点合計	総合評価
担当室		番号	題名	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
保健衛生室	新規	1	県内におけるリケッチアの実態調査	4.2	4.0	3.8	3.2	15.2	実施すべきものとする。
	新規	2	感染症の原因となるウイルスの網羅的な検出方法の確立	4.0	3.8	3.7	3.7	15.2	実施すべきものとする。
	新規	3	イヌ・ネコの咬傷・搔傷に伴う感染症の調査研究	3.8	3.8	3.7	3.3	14.7	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
化学衛生室	新規	4	QuEChERS法を用いた残留動物用医薬品一斉分析法の開発	4.0	3.8	3.7	3.3	14.8	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
水環境対策 チーム	新規	5	サルボウに注目した中海の自然再生モデルの検討	4.3	3.8	3.5	3.5	15.2	実施すべきものとする。
	新規	6	衛生画像を活用した湖沼の水質汚濁状況のモニタリング手法開発	3.7	3.8	3.7	3.3	14.5	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
リサイクル チーム	新規	7	溶融飛灰からの金属回収と新規材料の開発	3.5	3.7	3.3	3.3	13.8	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
	新規	8	廃小型電気電子製品等に含まれるレアメタル等の資源化とリスク評価	3.8	3.7	3.5	3.7	14.7	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
大気・地球 環境室	新規	9	鳥取県における黄砂、大気粉じんの実態及び健康影響に関する基礎的調査研究	4.5	4.0	3.8	4.0	16.3	実施すべきものとする。
	新規	10	鳥取県の山間部における光化学オキシダント高濃度実態調査	3.7	3.5	3.3	3.5	14.0	委員の意見等を反映して実施すべきものとする。

新規評価対象課題:10題

<総合評価の基準>

15点以上 実施すべきものとする。

10点以上 委員の意見等を反映して実施すべきものとする。
15点未満

10点未満 原則、実施しないものとする。

(別紙2)

● 中間評価対象課題と評価結果					研究の 実施状況	研究の成果	研究の効果	目標達成の 可能性	評価点合計	総合評価
担当室		番号	題名	研究期間	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
リサイクル チーム	中間	1	環境へ配慮した廃ガラスリサイクル技術の開発と高機能ガラスリサイクル製品の開発	H21～H23	4.2	4.2	3.8	4.3	16.5	継続すべきものとする。

中間評価対象課題： 1題

<総合評価の基準>

15点以上 継続すべきものとする。

10点以上 委員の意見等を反映して継続すべきものとする。
15点未満

10点未満 原則、継続しないものとする。

(別紙3)

● 事後評価対象課題と評価結果					目標の達成度	研究の成果	研究の効果・ 成果の実用化	研究成果の 発展性	評価点合計	総合評価
担当室		番号	題名	研究期間	平均点	平均点	平均点	平均点	平均点	
保健衛生室	事後	1	鳥由来人獣共通感染症の侵入監視に関する研究	H21	3.7	3.7	3.5	3.7	14.5	評価B (研究成果として概ね適当である。)
	事後	2	犬の狂犬病ウイルス抗体検査に関する調査研究	H21	3.7	3.8	3.8	3.8	15.2	評価A (優れた研究成果である。)
	事後	3	クロストリジウム ディフィシルの感染予防に関する調査研究	H21	3.5	3.5	3.5	4.0	14.5	評価B (研究成果として概ね適当である。)
化学衛生室	事後	4	マグロに含まれる不揮発性腐敗アミンの生成に関する調査研究	H21	3.7	3.3	3.8	3.8	14.7	評価B (研究成果として概ね適当である。)
リサイクル チーム	事後	5	無機性廃棄物からの有効資源の回収と再生利用に関する研究	H20~H21	2.8	3.3	3.2	3.7	13.0	評価B (研究成果として概ね適当である。)
大気・地球 環境室	事後	6	地球温暖化「鳥取県への影響」に関する調査研究	H21	3.2	3.2	3.5	3.5	13.3	評価B (研究成果として概ね適当である。)

事後評価対象課題: 6題

<総合評価の基準>

15点以上 評価Aとする。(優れた研究成果である。)

10点以上 15点未満 評価Bとする。(研究成果として概ね適当である。)

10点未満 評価Cとする。(研究成果が乏しい。)